別紙様式1

令和3年度　学校評価表

（ 中間・最終 ）

学校名　三原市立第三中学校　　校番（　3　）

a 学校教育目標	仲間とともに輝け三中 ～果敢に挑戦する生徒の育成～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命） 社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】（自校の将来像） 社会や世界の状況に対応し，よりよい社会を創るために挑戦する生徒が育つ学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10 月 h 達成値	2 月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力	○資質能力ベースの学びが展開され，生きて働く力が育まれる。 ○豊かな表現力と協同性が育まれる。	○学力調査において，単年度で全国平均比較で3ポイント向上させる。 ○批評的思考力や相手意識を持った表現力（パブリックスピーキング）を向上させる。	学びにつながる校内授業研究を一層充実 ○第三中「授業づくり徹底5項目＋α」を授業で完全実施 ○日常的な授業で「自ら考え，考えを他者に伝える場」を設定 ○基礎学力を培う学力向上学習（GK），家庭学習の充実とともに，知識を活用する場を設定 ○情報端末機器を活用した個別最適な学びの推進	・学力調査における年間全国比の伸び率 ・授業交流週間の実施 ・教育研究推進に係る校内研修実施	3P 3回 6回	－ 2回 9回	－ 3回 19回	－ 100% 316%	- A A	・全国学力学習状況調査結果から無答率が高く，生徒の問題に向き合う力など学習意欲に課題があった。 ・授業交流週間，校内研究授業は，時期の変更があったが，計画通り実施した。 ・11月16日には研究大会を実施し，事後アンケート結果より「参考となった」の回答が96%と，高い成果を上げることができた。	・定期試験等に思考・判断・表現を要する問題や記述する問題を出題し，無回答率等の状況を調査・分析し，学年を単位として改善に取り組んだ。GKタイムを活用し，基礎学力に加え，読解力向上を図る。 ・授業改善に向け，次年度も授業交流週間や研究授業を実施する。	○			・学習意欲をどのように高めるのかが本当に大きな課題だと思いますので，しっかりと取り組んでほしい。
				生徒アンケート ①「授業がよくわかる」の質問に対する肯定的評価 ②「Chromebookを使った学習はよくわかる」	80% 80%	1年 ①82% ②89% 2年 ①67% ②78% 3年 ①80% ②85%	1年 ①84% ②89% 2年 ①77% ②84% 3年 ①90% ②83%	1年 ①105% ②111% 2年 ①96% ②105% 3年 ①113% ②104%	①A ②A	・2学年で達成できなかった項目はあるが，概ね目標を達成した。全学年で，前期の結果を上回るなど，改善の傾向がある。 ・授業は落ち着いて実施できている。 ・「Chromebook」を授業で使用する機会が一層増し，コロナ禍において欠席生徒への授業配信等の活用も行うことができた。 ・「Chromebook」をGKタイムで活用することで，生徒一人一人の学習状況に合わせたドリル学習を行うことができた。	・学習し，理解した内容や自ら考えたことを他者に伝える「パブリックスピーキング」を意識させた指導を重ねる。 ・GKタイムにおいて「Chrombook」を利用し，生徒一人一人に応じたドリル学習に取り組ませるなど，基礎的基本的な内容の定着をめざす。 ・「Chrombook」をさらに授業内で積極的に利用し，学習意欲や学力の向上に活用する。	○			
豊かな心・健やかな体	○積極的な生徒指導の充実～ピア・サポートによる親和性の高い集団づくり～ ◎小中連携の推進により，全職員が生徒指導を含む全ての教育課程で義務教育を見通せるようになり，結果，不登校生徒が減少する。	○全生徒が粘り強く，助け合うことができるようになる。 ○忍耐力（レジリエンス）の向上を図り，問題行動を減少させる。 ○不登校生徒を前年度と比較し，2/3以下とする。	○「三中チャレンジカップ」の実施 ・縦割りによるピア・サポートの充実 ・肯定的な評価 ○三中スタンダードの徹底及び質の向上 ・挨拶，返事，言葉遣い，無言掃除	・生徒アンケートにおいて 「学校が楽しい」 「友達と話し合い，考えを広めていける」	90% 85%	88% 76%	94% 82%	104% 96%	A A	・生徒会主催による「三中チャレンジカップ」を計画し，実施をした(生徒会主催4回，行事2回)。生徒委員会において，「第三中学校の生活をよりよくしていくためにできることは何か」をテーマにしてチャレンジカップを提案し実施をした。 ・減点方式ではなく，加点方式としたことで生徒が積極的に取り組む姿が見られた。 ・三中スタンダードの徹底について，月1回の集会(感染症対策のためオンライン)を開催し，月ごとに生活の様子や課題について確認し，改善について呼びかけた。	・生徒が主体的に学校生活について考えられるような生徒委員会を運営していく。月の振り返りや課題意識を生徒から出させ，改善していく手立てを「三中チャレンジカップ」へ活用したり日常的な取組についても考えていく。 ・三中スタンダードの徹底について，教員主導の評価や指導だけではなく，生徒会にも関わらせることで，生徒自らがよりよい生活について考えることができるようにする。	○			・学校が楽しいという生徒が多く，素晴らしいと思います。 ・生徒会が前に出て，学校行事を頑張っているところが素晴らしいと思います。 ・三中スタンダードの活性化のために，校則についても生徒会で考える等，三中の歴史が繋がる取り組みを今後も続けてほしいと思います。
			○広島県生徒指導サポート実践指定校の取組 ・生徒指導主事を窓口とし，学年主任を中心とした体制を構築 ・特別支援の視点による生徒アプローチの実施 ・不登校生徒とその他の長期欠席者に対する統一取組の徹底 ・不登校傾向を示す生徒の早期発見と迅速かつ適切な対応 ・関係機関との協働的な連携実施	・不登校生徒数の減少 100日以上の不登校数 30日以上の不登校数 完全不登校	7人 9人 0人	0人 12人 0人	13人 28人 1人	目標値より 6人増 19人増 1人増	C C C	・月ごとの生徒指導テーマを設定し，月1回の集会(オンライン)で生徒に周知した。 ・月1回，特別支援教育委員会を開催し，気になる生徒について交流し，特別支援の視点を踏まえながら，対応や指導について協議，連携をした。 ・専門家を招き，学年ごとの授業参観を通して特別支援教育の視点から助言をいただき情報共有した。 ・不登校生徒，長期欠席者に対して，授業の進度，課題(宿題等)について知らせることにより，学校の様子や学習について支援を継続した。 ・教育相談委員会の定期開催を継続実施し，配慮や取組が必要な生徒についてSSW，SC，関係機関(三原市子育て世代包括支援センター等)と連携し，対応した。	・生徒指導委員会の実施を継続し，学年の実態や課題について協議し，三中スタンダードの徹底等，学校全体として取り組むことについても検討し，改善を図る。 ・特別支援を要する生徒について年間の取組をまとめ，次年度へ向けた取組について検討していく。 ・不登校傾向の生徒について，教育相談委員会でSSW，SCの意見を取り入れながら対応について協議する。 ・SSWやSC，関係機関との連携を継続し，小学校の不登校の状況や取組についても連携していく(次年度新入生)。	○			・コロナ感染増加の中，欠席理由が「コロナ感染が不安での欠席」か「不登校傾向」なのかを見極めることは難しいですが，すべての生徒にしっかりとアプローチしながら対応してほしい。 ・コロナ禍で，従来とは異なる課題が増えた等，新たな課題が出ていると思いますので，分析と実践に取り組んで頂きたいと思います。 ・不登校生徒の増加に関しては，学校や家庭だけの問題だとは思えません。国としても，本気で考えてほしいものです。
信頼される学校・働き方改革	◎働き方改革が推進され，学校教育力が向上する。	○行事の精選と学校組織力を向上させ教職員が生徒に向き合う時間を向上させる。	○行事の精選と定時退校日の完全実施 ○機能するカリキュラムマネジメントにより効果的な校務運営	・行事の見直し ・超過勤務月60時間以内	3項目 70%以上	2項目 74%	3項目 79%	100% 106%	A A	・1学期に実施予定の家庭訪問を希望者懇談会に代えるなど，年間行事の見直しを実施することで1学期の定期試験を1回とした。 ・昨年度の課題から，今年度の超過勤務60時間以内を目標に掲げ，定時退校の呼びかけを積極的に行った結果，目標を上回る79%の成果を上げることができた。事務処理等が特定の主任等に偏る傾向があるため超過勤務をせざるを得ない職員が数名いる。	・職員にゆとりがもてるように，経営会議等で議論を重ね，一層の学校行事の見直しを行うことで，教職員が生徒に向き合う時間を確保したい。 ・超過勤務の職員への声掛けを積極的に行うとともに，組織として行う業務の分担や実施をマネジメントする。	○			・超過勤務月60時間以内の教職員が目標を上回る79%の成果を上げておられることから，働き方改革を積極的に進めておられるので安心しました。
	○通いたい・通わせたいと感じさせる学校を創る。	○普通学級編成を各学年4学級編成とした，様々な縦割りの学校教育を実施する。	○小中連携を通して，小学生及び保護者，小学校教職員に信頼される学校づくり ○環境整備を推進し，美しい学校づくり ○生徒の自治的な活動を活性化する ○行事の充実 ・第3学年生徒をリーダーとした全ての生徒が輝く行事の実施 ○便りやHPを活用した学校教育の発信	・校区内の児童生徒の情報共有 ・主体的な学びに迫る校内研修 ・たより等による広報 ・ホームページの更新	月1回 6回 24回 月2回	月4回 4回 19回 月2回	月4回 6回 48回 月2回	400% 100% 200% 100%	A A A A	・校区内の児童生徒の情報共有については，コロナ禍のため，オンライン連携を行っている。毎週木曜日に共通の小中連携シートへ各担当が現状を入力しシートを作成して月1でオンライン連携を行うことで，校区内の連携を深めることができた。 ・授業交流週間を通して，互いの授業を評価，助言し合うことで教職員の授業改善・授業力向上に繋がり，生徒アンケート「授業がよくわかる」生徒が増えたことが成果である。一方，課題としては，テスト等での記述式問題の無答率が高いことである。 ・今年度もコロナ禍の中で，いくつかの行事が中止または延期されたが，生徒の活動の様子を歳時記等で積極的にHPに掲載したり学校だよりをすぐ一るで配信した。	・オンラインでの連携は，コロナ禍では有効だが，生徒の実態が把握できにくい部分もあるため，感染対策を施しながら，できるだけ小学校と直接連携していきたい。 ・記述式問題の無答率を下げるために，「伝える」こと(「話す」・「書く」＝output)を前提とする指導を行い，相手意識を持ち，相手に伝わるように分かり易く話したり書いたりすることを授業の中で意識させる指導をしていきたい。 ・三中歳時記など，生徒の活動の様子などをHPに掲載するなど，タイムリーな情報発信を工夫していきたい。	○			・コロナ禍のため，様々なところに影響が出ていることと思いますが，そんな中でもオンライン連携など，できないからやらない方向ではなく，できることを模索しながらやっておられるところが素晴らしいと思います。

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。 ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。